

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000572		
法人名	ミツモトハウス株式会社		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	小樽市幸2丁目22番2号 (電話) 0134-24-6500		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成22年2月9日

【情報提供票より】(平成21年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	24名, 非常勤 3名, 常勤換算 22.9名

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 1～3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円		その他の経費(月額)	光熱水費 18,000円
				暖房費(10～4月) 10,000円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	330 円	昼食	330 円
	夕食	440 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	10 名	女性	16 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院、兵藤歯科医院、おたるイアクリニック、三ツ山病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの特徴は、大きく三つあります。第一は「あすなろ農園」での利用者の参加です。ホーム前の菜園に加えて、隣町の農地を利用した農園を開設し、苗植えから収穫に至る一連の作業に利用者が参加して、収穫された野菜などの袋詰めまで行なっています。収益の一部は利用者に還元されるなど、利用者同士で働く意欲の醸成となっています。第二は同業者に声かけし「複数事業所連携事業」を試みていることです。複数のグループホームで互いのサービスの向上を目指した講演会を開催して、職員のスキルアップを図ろうとするものです。第三は、ホーム内に「地域ネットワーク」「研修」など職員による4つの委員会を設置し、ホーム運営者及び職員参加により年間計画を立てながら実践してる点です。運営者の認知症高齢者の福祉に対する並々ならぬ意欲、識見に加えて、職員の前向きな行動が地域に温かく迎えらる大きな要因となっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、職員を育てる取り組みなど6項目の課題がありましたが、災害対策や評価の意義と理解の活用、職員を育てる取り組みなどは、管理者及び職員の取り組みの努力により改善されています。また、運営推進会議についてもメンバーが出席しやすい時間帯の検討など課題の改善に着手しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価では、職員全員で気づきや反省が見られ評価の意義が強く理解されています。「家族への報告」では、新たな課題への取り組みが必要となりましたが、職員の英知と前向きな行動で取り組まれるよう期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月毎に開催される運営推進会議では、ホームの現況やヒヤリハット、評価で得られた課題への対応など、開かれた会議内容を覗くことができますが、出席メンバーが少ないため、メンバーを柔軟に選択し会議の内容を豊富にする取り組みを期待します。町内会の婦人層や市の担当職員、または地域包括支援センターの職員に加えて、多くの家族の出席をいただき、ホーム運営やサービスの質の向上に寄与する取り組みを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話などで、意見や要望、苦情などを開ける雰囲気作りに努め、伺った意見、要望は必ず記録して職員が共有し、ホーム運営の改善に役立てようとしています。外部の苦情対応窓口の紹介も行なっていますが、職員間では家族アンケートによる意見要望の収集について、新たに検討されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームでは、運営者の強いリーダーシップにより地域との融合に力を入れており、様々な成果が見られます。地域の情報を掲載する大きな掲示板、地域住民が気楽に立ち寄っていただける菜園作りや子供達に人気の動物たち、地域にとって恒例の参加者で賑わう「あすなろ祭り」など、地域との連携は益々広がりを見せており、利用者の暮らしに大きな潤いをもたらしています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で、地域の力を借りながら、その人らしく暮らし続けることを支えるとした、独自の理念が職員を中心に検討され作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、利用者の暮らしを支える中で、理念を具現化していくため確認を仕合ながら、日々の取り組みが行なわれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の理解をいただいて、ホーム便りの回覧や町内の行事に積極的に参加しています。ホームでは犬やニワトリ、兎など飼育しており、近隣の子供達、家族の訪問もあるなど、地域との一体感が視えます。ホームの祭りも6年を迎え地域に定着し、沢山の住民参加により賑わっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に、職員全員が日頃のサービスについて振り返る良い機会と捉えて自己評価が行なわれています。また、外部評価で得られた課題にも反省と改善への強い姿勢が視うことができます。		

小樽市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催され、ホームの現況や活動状況、今後の事業予定や重点的取り組み事項、また、町内会の情報などが提供・審議されるなど、ホーム運営に役立っていますが、町内会や家族のメンバーが固定化している傾向にあります。	○	町内会の婦人部を含め家族等の出席要請、また、市の担当者や包括支援センター職員の出席を要請しながら、幅広いメンバーによる会議となるよう取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護や介護支援の各担当窓口と連携を図りながら、サービスの質の向上を目指して協働しています。また、市の要請で他の福祉関係者の視察を受入れるなど、開かれたホームとしての役割りを担っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「あすなろ便り」でホームの状況を判りやすく説明しているほか、家族の訪問時に管理者及び職員が利用者の様子を話しています。また、金銭管理の報告は、毎月の請求書に合わせて郵送されています。以前行なわれていた利用者一人ひとりの様子を知らせるお便りは中断されています。	○	「あすなろ便り」は家族や地域にも回覧されているため、利用者一人ひとりの暮らしぶりが理解しづらい面があります。家族にとって利用者の表情や会話が見える個人別の情報が知りたいとの要望に応えるため、以前に実施された担当者による「一筆箋」の復活に向けた取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に要望、意見、また苦情を伺うこととして、管理者及び職員は、気軽に話し合う雰囲気作りに努めています。家族との会話も聞き流さず記録して反省の材料にしています。また、外部の苦情対応窓口も紹介しながら、開かれたホーム作りが行なわれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列グループホームや小規模多機能型事業所との間で、若干の異動は見られますが、管理者及びリーダーには異動がなく、利用者にとって安心の暮らしが継続されています。異動や退職の場合も、度々ホーム訪問がなされて利用者へのダメージ防止が図られています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットから選ばれた職員で構成する研修委員会が、ホームで必要とする課題を取り上げながら、年間計画を作り実践しています。また、外部研修への紹介、受講経費の法人負担など、きめ細やかな配慮により、職員を育てる取り組みが行なわれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、他の同業者と「複数事業所連携」事業に取り組むなど、交流の機会を活性化させています。また、グループホーム協議会で年4回の自主的研修を行なうなど、サービスの質の向上に努めていますが、職員の相互訪問や交流などの取り組みは十分ではありません。	○	ホームの質の確保のためには、同業者との交流や連携が不可欠であり、運営者及び管理者は十分理解し実践に努めていますが、職員においても、他のグループホームの相互訪問や交流を通して、学び合い親睦を深める取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が訪問して、ホームの雰囲気や利用者の暮らしぶりを見ていただき、納得の上で入居されています。管理者及びリーダーはこれまで暮らしていた住居など、環境も把握しながら、ホームでの暮らしが馴染めるように配慮し、支援をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の個性を十分に把握、尊重しながら、日々の暮らしの中で信頼関係作りに努めています。利用者と一緒の共同作業を行ないながら、温かく穏やかな会話の中から喜怒哀楽を共にするなど、お互いが支え合う関係を大切にしています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で声をかけ、把握に努めています。言葉や表情などから利用者の真意を押し測るなどして、確認するようにしています。また、意思疎通が困難な場合は家族等からの情報をいただくほか、利用者にとって何が最良なのかを検討して介護計画に反映させています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常の「できること、できないこと」への対応を定期的なモニタリングや毎日のミーティングの中で確認し合い、職員の気づきやアイデア、利用者や家族の意見や要望が介護計画に反映するようにしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一度の全体ミーティングや3ヵ月毎のモニタリングを通して課題の分析が行なわれ、職員と計画作成担当者、介護支援専門員が一体となって計画の見直しについて話し合いが行なわれています。介護支援専門員は家族等の意見や要望が反映されているかチェックをするなど細やかな配慮が行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診や送迎など柔軟な支援が行なわれています。隣接の小規模多機能型事業所やグループホームへの訪問や交流、家族と共に出かけるドライブ、「あすなろ農園」での農作業の手伝い、袋詰めによる内職報酬など、働く意欲と喜びを共有しながら支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の要望もあり、以前からのかかりつけ医の適切な治療が受けられるよう支援しています。また、ホームの協力医も24時間対応の支援が受けられ、往診サービスも適切に行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けては、ホームとしての「できること、できないこと」の基準によりながら、家族とかかりつけ医との協議が行なわれていますが、方針の文書化による説明と同意書をいただくまでには至っていません。	○	重度化した場合や終末期の支援のあり方やホームの対応については、予め家族と十分な説明と協議が必要と思慮します。ホームとしての方針を文書化し、できるだけ早い時期から話し合いの機会を作るとともに職員全員が共有しながら、体制作りへの取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護支援にあたっては、利用者の尊厳を第一と考え誇りやプライバシーを損ねない配慮がされています。暮らしの中での言葉掛け、リハビリパンツなど介護用品の取り扱いにも最大限の心配りをしながら支援しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの流れで、全員で行なうリハビリ体操と食事はおおよその時間設定がありますが、それ以外は一人ひとりのペースでゆったりと、また、散歩や動物の世話など思い思いの暮らしが続けられています。朝寝のために食事の時間を変えるなど、日々その人らしい暮らしの支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は、栄養士が作成したメニューを基本に、職員がアレンジメントしながら調理して提供されています。また、週2回は自由献立で利用者の希望を汲み取り作られています。職員も一緒に食事を摂り、楽しい会話作りで美味しくいただけるよう配慮が視えます。配膳、下膳もできるだけ利用者が行なえるよう気配りされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者には少なくとも週2回の入浴を楽しんでいただくよう勧めています。時間帯も午前、午後など希望を優先しています。利用者によっては隣接の小規模多機能型事業所の大きな浴場に通うこともあり、思い思いの入浴を楽しんでいます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者は利用者の生活歴やアクティビティを把握し、できること、できないことに配慮しながら、利用者の暮らしの中で役割や楽しみごとの機会を作り支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天日の散歩も希望者を対象として行なわれ、近所の散歩やホーム前の菜園や動物の世話など、閉じこもり防止に配慮しています。また、ドライブは一番好まれており、郊外やウイングベイでの食事、買物、隣町にある「あすなろ農園」での苗植えや収穫など、戸外での気晴らしもふんだんに取り入れています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関、ユニット毎の施錠は無く、常に開放されています。職員は見守りと気配りで鍵の掛けないケアを実践しています。利用者の希望により居室の施錠が一部ありますが、家族も了解されています。夜間のみ玄関、ユニット間は施錠して安全な夜を過ごしていただいています。		

小樽市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただきながら夜間想定避難を含めた災害避難訓練が行なわれています。(夜間想定は12月以降の実施予定)また、消防署主催の自衛消防訓練に参加しながら、対応技術の習得に余念がありません。ホームでは地域住民の方々への協力要請をしていますが、今後は具体的なカテゴリーなどの協力要請について検討することになっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導で献立が作られて、栄養バランスに配慮されています。毎日の食事摂取量や水分摂取量は克明に記録され、利用者の状況によっては献立の一部変更や刻み食などの改良を加えて提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの入口には、昔懐かしい家具、調度品、民芸品などレトロ調のコーナーがそれとなく飾られています。居間では季節感漂う飾り物や、利用者の笑顔があふれる写真が壁を潤し、居心地良い共用空間が広がっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、馴染みの家具、ソファ、整理ダンスなどが持ち込まれ安心して暮らせる空間となっています。仏壇や家族写真、自らの手芸品などが飾られている居室もあり、温かな安心できる雰囲気を感じることができます。		

※ は、重点項目。